

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院 学校教育研究科
	事業名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修】 教師自身の「主体的で対話的な学びの場」となるコラボ研修 「声」で変わる！伝わり方 ～アナウンサー経験から学んだこと～
支援事業報告書	開催日時：令和7年9月9日（火）13時50分～16時30分 開催場所：常葉大学（静岡県静岡市駿河区弥生町6番1号） 参加人数（総数）と参加者の属性：（43人）一般教員11人、行政職員2人、一般市民1人、他大学の教員1人、大学生2人、大学院生20人、大学教員6人

#### 目的：

- 1 参加者にとって「主体的で対話的な学びの場」となる研修を目指す。  
昨年度と同様、「教師自身の「主体的で対話的な学びの場」となるコラボ研修」をテーマとし、グループワークを活動の主軸とすることで、参加者を主語とした研修を目指す。
- 2 参加者が、自身の声や話し方を見つめ直し、よりよいコミュニケーションについて考えることができるようにする。  
K-MIX 静岡 FM 放送や和歌山放送でのアナウンサー経験のある本学准教授の宮本淳子氏を講師として招き、声の出し方や話し方について学ぶ中で、教員等としてのよりよいコミュニケーションの在り方について考える機会とする。

#### 内容：

- 1 グループの顔合わせ  
開会行事終了後、研修への参加目的別に分かれた6～7人のグループで、研修目的や研修に期待すること等を交えながら互いに自己紹介を行った。
- 2 講師の講話  
「「声」で変わる！伝わり方～アナウンサー経験から学んだこと～」というテーマで、本学准教授である宮本淳子氏の講話を伺った。声色や発声、話し方の重要性について、体験活動を交えながら理解することができた。
- 3 グループ協議  
講師の講話を受け、研修への参加目的に基づいて構成されたグループごと、声や話し方に関する参加者自身の気付きについて情報交換をした。普段の教育活動等と関連させながら、望ましいコミュニケーションの在り方等についても意見交換を行った。
- 4 グループ発表  
グループで話し合ったことを発表した。宮本氏の講話から得た新たな知見に関することはもちろんのこと、教員としての発声や話し方等、自分自身のコミュニケーションの在り方に触れる意見も出された。
- 5 講師の講評  
グループ発表を受け、宮本氏が講評を行った。「意識し続ければ、変わることができる」という言葉が印象的であった。講師講評の後には閉会行事を行い、研修を閉じた。

#### 成果：

- 1 参加者が、自身の発声の仕方や話し方について見つめ直す機会になった。  
(参加者の声) ・声での伝え方を理論的に解説していただき、改めて自分の話し方を見直すことができた。  
・研修を受けるまで、普段どんな声を出しているかなど、意識したことがなかった。  
・自分に何が足りないか・必要かを理解することができた。
- 2 教育現場で生かすための知見が得られ、実践意欲を高めることができた。  
(参加者の声) ・教育現場で活かそうな多くの事を学べた。今日から実践できそうだ。  
・意識するだけで伝わり方も全く違う、明日から学校での仕事に生かしたい。
- 3 グループワークを通して、参加者自身の主体的な学びを構築することができた。  
(参加者の声) ・働いている場所、この研修に来ている立場が異なる皆さんとお話する機会がもて、とても勉強になりました。  
・グループになることで座席も気持ちも距離が近くなり、話しやすかった。学んだことを振り返り、考えたりしたことを話し合うことができ、学びが深まった。

## 「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

### 1 参加者の体験活動を交えた講話の効果

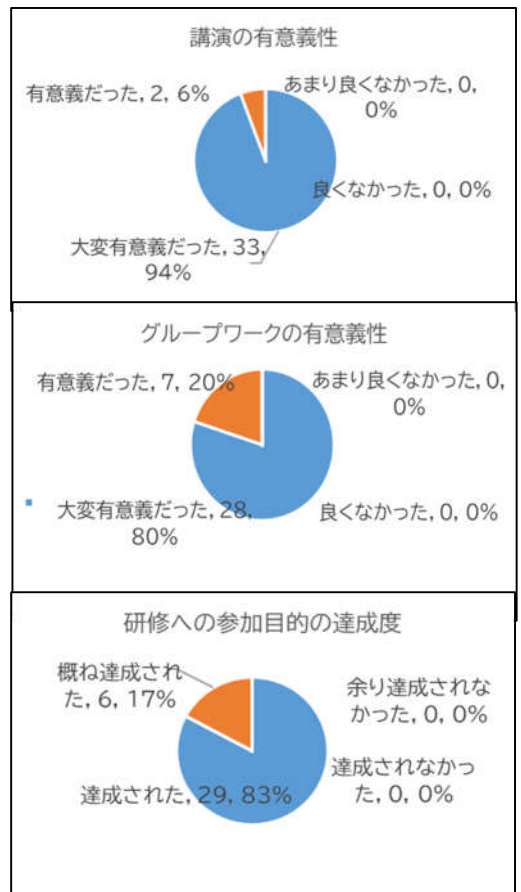
右図のアンケート結果が示すように、今回の講師講話は極めて好評であった。その要因の一として、参加者の体験活動の場が用意されていたことが大きいのではないと思われる。ただ話を聞くだけの講話の時間は、どうしても受け身になりがちである。今回の研修では、折に触れて、参加者に声を出してもらう場が用意されていた。講師の話の内容を実際に自分がやってみることで、より理解が深まるとともに、参加者に新たな気付きがもたらされたのではないかとと思われる。

### 2 質の高いものに触れることのよさ

講話の評価が高かったもう一つの理由は、内容がよかったことに加え、講師の実演が素晴らしかったことにあるのではないだろうか。講師の宮本氏は、プロのアナウンサーであり、表情にしても、発声の仕方や話し方にしても、素晴らしいものを持っている。参加者の1人が、「講師が常に笑顔で話されており、それによって引き込まれる、時間を忘れる研修だった」と書いていたように、質の高いもの（話し方）に触れたことで、参加者の意識が高まり、充実した研修につながったのではないかと考えられる。

### 3 参加同士が対話することの意義

グループワークの有意義性についても、高い評価が得られた。グループワークを通して自分を語り、また、他の参加者の意見を聞くことで、自身の考えや気付きが深まり、研修内容が自分事になっていくのではないと思う。研修への参加目的の達成度の高さに、グループワークも一役買っているものと推察される。



## アイデアや工夫したこと：

### 1 研修への参加目的を事前に聴取し、研修実施後は、その目的に応じて振り返りをしてもらったこと

本研修に参加する参加者の意識を高めるとともに、主催者として参加者のニーズを確認するため、事前に一人一人から研修への参加目的を聴取した。また、その状況を研修実施前に講師にも伝え、講話に生かしてもらえるようにした。参加者の研修への参加目的は下記の通りである（大学教員分は含まず）。

- (1) 声を出し方や話し方について学びたい。（7人）
- (2) 授業等をはじめとする日々の教育活動に生かしたい。（24人）
- (3) 研修を機に、自身のキャリアアップを図りたい。（6人）

参加目的の選択肢としては、「アナウンサーの仕事について知りたい」というものもあったが、選んだ参加者はいなかった。

この参加目的の達成度については、上欄に示したとおりである（達成度の選択肢としては、「あまり達成されなかった」、「達成されなかった」という否定的なものも含まれていたが、選んだ参加者はいなかった）。

### 2 参加目的別に分けたグループによるグループワークを活動の主軸としたこと

グループワークを活動の主軸にし、講話もグループワークの中に組み入れる形にした。加えて、講話の前に、グループ内で互いに自己紹介する場面を設定した。それにより、グループとしての親密度が高まり、講話後のグループ協議にもスムーズに入っていくことができた。また、同じ参加目的の者でグループを組んだことにより、グループ協議でも、より具体的でつっこんだ話し合いをすることができた。また、グループ内での話し合い内容を確認しながら記録するツールとして、円形ホワイトボード（えんたくん）を用いた。これは、グループ発表の際に、全体への提示資料としても活用できた。



講師講話の様子



グループ協議の様子



グループ発表の様子